

≪「報告書詳細版」は巻末の付録USBメモリに収録しています≫

第17部

コミュニティ活動支援のためのシステム構築(概要版)

奥村 貴史、阪本 裕介

第1章 はじめに

CSAW (Collaboration Support Architecture for Wide-Community) は、WIDEプロジェクトの研究活動を支援する基盤として稼動しているアカデミック用SNS (Social Networking Service) である。CSAW WGでは、名古屋大学河川研究室を主体として開発されたACS (Academic Community System) をWIDEプロジェクト用にカスタマイズし、2007年よりWIDEメンバー向けにCSAWサービスを提供している。近年、WIDE合宿やWIDE研究会への参加者が減少しており、新しい参加者も主要研究室からの参加が主体で、多くは卒業や修了と共にWIDEのコミュニティを去ることが珍しくない。こうした状況に対して、CSAW WGは、CSAWシステムを通じてWIDEコミュニティの活性化と研究活動の触媒となることを目的に活動を行ってきた。

第2章 CSAWを巡る状況

しかしながら、CSAWは、設立直後に一定数の利用がみられたものの、その後は合宿や研究会時の少数の利用に留まり、その後長らく、活発な利用は一部のユーザーに留まっていた。利用者が少なければ、そもそもの目的であるWIDEコミュニティの活性化を果たすことも出来ない。そこで、限られた人的資源のなかで、如何にしてWIDEの活性化に貢献しうるか、議論を重ねて来た。その結果、そもそも合宿や研究会への参加者自体が減るなか、WG活動の主体である社会人が出来る貢献にも限界があることが明らかとなった。また、活動予算の確保も模索したが、エンジニアを雇用できるような予算を確保することは困難であった。そこで、現行CSAWシステムについては省みず、

まずはPC活動の支援を通じてWIDEのコミュニティのために可能な範囲での貢献を果たすことを目指した。

第3章 今年度の活動

以上の方針で、今年度は、研究会・合宿PCにCSAWリエゾン担当を参加させ課題の整理や可能な支援を行って来た。また、Twitterとの連携機能の運用や合宿Web担当との連携を図った。2014年の秋合宿においては、Human Bingo企画を担当し、WIDE参加者のコミュニケーション促進に向けた貢献を試みた。しかし、2014年冬研究会、2015年春合宿での企画参加が困難となったうえ、CSAWに対して現状以上の貢献が求められていることが明らかとなった。CSAW WGは、WIDEの研究活動の活性化に向け可能な範囲での貢献を果たすことを望んでいたが、限られた人員で現状以上の活動を行っていくことは難しい。そこで、今年度でWG活動を終了する方針となった。

第4章 まとめ

合宿、研究会の効率運営や充実したMember webなど、WIDEプロジェクトの活動を支える情報基盤へのニーズは少なくない。CSAW WGは、この問題に取り組み、WIDEコミュニティの活性化と研究活動の触媒となることを目的に活動してきた。しかしながら、プロジェクトへの参加者自体が減るなか、人員や予算を確保する困難さに直面した。コミュニティの活性化に際しては、一WGによる努力には限界がある。今後、WIDEへの参加者が効率的に研究活動を遂行し、参加目的を達成することができるよう、組織を挙げた取り組みが望まれる。